

# 03

## ミュージックフェストなら 2023 秋 (Herbst) ~ Freude und Glück ~ バリトンサックスの愉しみ

10/26 (木) 東大寺総合文化センター 金鐘ホール (奈良) [出演] 栃尾克樹 (Bs)、辻ゆり子 (Pf)

### 古の都で紡がれた、静かで美しい詩情の世界



©撮影:山瀬剛志

樹々がうっすらと色づき始めた秋の日、“古都奈良”を訪ね、栃尾克樹と辻ゆり子による「バリトンサックスの愉しみ」を聴いた。この公演は、世界遺産の社寺仏閣や美術館、ホールなどを中心に、奈良県内各地で多彩な音楽イベントを実施・連携する「ミュージックフェストなら」の一環として開催されたもの。会場となった金鐘ホールは国宝・東大寺南大門をくぐり抜けたすぐ左手にあり、窓から差し込む柔らかな陽光とステージ正面に浮かび上がるレリーフの「華嚴の世界」が、何か日常と非日常との狭間にいるような、特別な感覚を抱かせた。

前半は弦楽器の名曲、後半は映画の名旋律を中心としたプログラム。とりわけ弱音を大切にしつつ、互いの響きを聴き合いながら詩的に音づくりを重ねていく二人のアンサンブルは、音と音の間に流れる気配のようなものまで美しく、静かな説得力をもって胸に迫ってくる。クライスラーの3つの古いウィーン舞曲(『美しくロスマリン』、『愛の喜び』、『愛の悲しみ』と、通例とは異なる順だったことにもこだわりが感じられる)では、明るく朗らかな音色のなかにもどこかメランコリックな表情が佇み、ヴィヴァルディ『チェロ・ソナタ 第1番』は、比較的穏やかなテンポで語り口は端正ながら、その響きはニュアンスに富み、多彩な美しさに満ちていた。グリーグ『ヴァイオリン・ソナタ 第3番』の第2楽章では、辻のピアノには、まるで夜の静寂のなか一筋の光が森を照らし出し、樹々を振るわせ、湖面を波立たせていくような美しさがあり、栃尾のバリトンが描き出す、陰影の豊かさ、静謐な表情の下に凝縮された激情の表現も見事。アンコールのシューベルト「菩提樹」では、紡がれた美の深さに、心が芯から震わされた。

10月に60歳を迎えた栃尾。赤いストラップと、バリトンサックスには赤いネックを装着し、「もう年寄りなので……」などと場を和ませていたが、美しい詩情のなかに時折覗かせる青年のような瑞々しさも、とても魅力的だった。(近藤香織)

# 04

## 第1回 東京藝術大学 アカンサス音楽祭 第1日 室内楽の日

8/26 (土) 東京藝術大学演奏堂 (東京)

[出演] 大石将紀 (Sax)、白尾彰 (Fl)、野田清隆 (Pf)、中津川輝 (Sax)、花崎薫 (Vc)、古典四重奏団、ピアノデュオ ドゥオール

### 謎めいたサックスの響きで第1回藝大アカンサス音楽祭が始まった



©東京藝術大学演奏堂 (撮影:横田敦史)

ステージの中央に立つ大石将紀 (S.Sax) の、呪文のような音色が藝大演奏堂に静かな波紋のごとく拡がる。細川俊夫『スペル・ソングー呪文のうたー』、神や精霊などへの呼びかけを思わせる本作は、オーボエのための原曲を大石がサクソソノ口として過去に初演したもの。この謎めいた曲で、東京藝術大学が主催する新しい音楽祭は幕を開けたのである。続く2曲目は、大石と中津川輝とのデュオ。といっても2人はステージ上で左右に分かれ、酒井健治の『露の中で』(2本のアルト・サクソフォンのための)を、曲が終わるまで数メートルの距離を保ち続けながら、何かを観衆に問いかける。孤独と分断、今年を象徴するかのような2曲のオープニングこそが、新時代の「藝大の音楽祭」に相応しいのかもしれない。

大学を巡る経済環境は厳しさを増し、藝大も例外ではなく経費節減を迫られていた。そんななか、前学長の澤和樹氏やOBたちが声

を上げ、藝大音楽学部支援のための「アカンサス音楽祭」を立ち上げる。記念すべき第1回の初日は「室内楽の日」と題された。続いて古典四重奏団が、CD全集で高評価を受けたショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲から第4番を熟演。室内楽の王道というべき庄巻のステージ。後半は白尾彰 (Fl)、花崎薫 (Vc) の2人に、野田清隆 (Pf) のトリオによるウェーバーで始まる。白尾の美しい音色が導く緻密で美しいアンサンブルはまさに至芸。そしてこの日最後は、ピアノデュオ「ドゥオール」の2台ピアノによる、ダイナミックなバーンスタインとラフマニノフで締めくくられた。音楽祭初日は、室内楽の多彩な魅力を堪能できる演奏会となった。

翌日は「オーケストラの日」と題され、指揮の小林研一郎と、小山実稚恵 (Pf) が、藝大出身者による特別編成のオーケストラ「東京藝大アカンサスフェスティバル・オーケストラ」と競演した。なお来年8月には、第2回の開催が予定されている。

(東京藝術大学准教授 阿南一徳)



©東京藝術大学演奏堂 (撮影:横田敦史)